

(仮称) 株式会社 T&H エコみらい 廃棄物焼却処理事業に係る環境影響評価方法書
委員から寄せられた質疑・意見に対する事業者の見解

株式会社 T&H エコみらい

No.	関連ページ	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解
1	2-8	事業の内容	廃棄物の種類	(9月15日懇談会での質疑・意見) 動物の死体の受入は、交通事故で死亡した動物や感染症等により殺処分された動物を想定されているのか。	(9月15日懇談会での回答) 本施設では、畜産系の業者から処理の要望があった場合に受け入れることを想定しています。
2	2-8 2-15	事業の内容	処理方式の概要及び処理の流れ	(9月15日懇談会での質疑・意見) 廃酸、廃アルカリ及び汚泥を焼却する際は、廃棄物ピットを経由し、他の廃棄物と混ぜて炉に投入されるのか。また、感染性廃棄物の投入に当たっては、他の廃棄物と別ラインとの理解でよいか。	(9月15日懇談会での回答) 廃酸、廃アルカリの割合は少なく、廃棄物に付着・混入する程度のものを想定しています。汚泥は廃棄物ピットに受け入れ、他の廃棄物と混合後、焼却炉へ投入します。 感染性廃棄物は専用容器に収納されているものを専用ラインから専用容器ごと直接焼却炉に投入します。
3	2-13	事業の内容	処理方式の概要及び処理の流れ	(9月15日懇談会での質疑・意見) ロータリーキルン出口ガス温度はどの程度か。	(9月15日懇談会での回答) ロータリーキルン出口ガス温度は 900℃～1000℃程度になります。
4	2-13	事業の内容	処理方式の概要及び処理の流れ	(9月15日懇談会での質疑・意見) 金属くずやコンクリートくずなどは燃え残って主灰として排出されると考えられ、また、様々な種類の廃棄物が搬入される中で、危険物等の混入や主灰の安全性の確認はどのように行われるか。	(9月15日懇談会での回答) 主な受入は隣接する破砕選別施設からの廃棄物であるため、大きな金属等の混入はありません。また、その他の廃棄物の受入に当たっては定期的な目視確認を行い、焼却後の主灰については、定期的に測定を行います。 多種類にわたる廃棄物を安全に処理するためには、均質化して炉へ投入することが重要であり、そのため廃棄物ピットにおいて十分に攪拌・混合のうえ混合物をロータリーキルンへ投入します。ロータリーキルンで混合廃棄物を焼却した後、さらに未燃残渣分を後燃焼ストーカで完全燃焼させます。

No.	関連ページ	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解
5	2-17	公害防止計画	公害防止基準値	(9月15日懇談会での質疑・意見) 硫黄酸化物の総量規制基準を求める式において、1炉当たりの排出量の計算結果を最後2倍して2炉分の総量としているが、Wi(定格能力で運転する場合の原燃料使用量を重油の量に換算した量)を2炉合計の数値にして算出すべきではないか。	(9月15日懇談会での回答) 関係法令による基準値の硫黄酸化物の総量規制基準は「事業者のための大気汚染防止法のてびき(令和4年10月版)」に基づき算出していますが、再度確認します。 (9月15日懇談会後の追加回答) 後日、千葉県及び市原市の担当課に再確認したところ、ご指摘のとおりWiを2炉合計の数値とするように指導がありましたので、準備書にて別紙のとおり修正します。
6	2-17	公害防止計画	公害防止基準値	(9月15日懇談会での質疑・意見) 硫黄酸化物のK値規制について、乾きガス量を用いて算出されているように思われる。一般的には湿りガス量を用いて算出するものと考えられるがどうか。	(9月15日懇談会での回答) 確認後、回答します。 (9月15日懇談会後の追加回答) 湿りガス量より算出していますが、数値に誤記がありましたので、準備書にて以下のとおり修正します。 修正前: 11.29m3N/h(87ppm) 修正後: 12.36m3N/h(97ppm)
7	5-3	環境影響評価の項目	—	(9月15日懇談会での質疑・意見) 環境影響評価項目で粉じんが選択されていないが、バグフィルタによる捕集効果が十分期待できることを踏まえた結果という理解でよいか。	(9月15日懇談会での回答) 供用時における粉じんは、浮遊粒子状物質に代表させて環境影響評価を行います。
8	5-42	調査・予測・評価	施設の稼働に伴う大気質の影響	(9月15日懇談会での質疑・意見) 予測対象時期に「計画施設の稼働が定常状態になった時期(1年間)」とあるが、これは具体的に施設がどのような状態であることを指しているのか。	(9月15日懇談会での回答) 最大処理能力である330t/日の処理を1年間継続している状態を指しています。
9	5-44	調査・予測・評価	廃棄物運搬車両の走行による大気質の影響	(9月15日懇談会での質疑・意見) 廃棄物運搬車両の走行による大気質の影響について、運搬車両の台数はどの程度正確に見積もれるか。	(9月15日懇談会での回答) 受入れる廃棄物のうち、約3分の2が親会社である株式会社タケエイから搬入される計画であり、運搬車両の種類や台数はある程度予測が可能です。
10	5-45	調査・予測・評価	廃棄物運搬車両の走行による大気質の影響	(9月15日懇談会での質疑・意見) 評価の手法について「環境影響をできる限り回避又は低減されているかについて見解を示す」とあるが、具体的にどのような評価をする予定であるか。	(9月15日懇談会での回答) 基本的には数値上では評価できない内容のため、例えば「廃棄物の運搬車両はこのような規格のものを利用し、影響を抑える」といった見解の提示を想定しています。

No.	関連ページ	項目	細目	質疑・意見の概要	事業者の見解
11	5-84	調査・予測・評価	工事の実施に伴う土壌汚染	(9月15日懇談会での質疑・意見) 対象事業実施区域について、現在は駐車場とのことであるが、以前の地歴はどうか。また、土壌汚染調査は、土壌汚染対策法に準じて実施されるのか。	(9月15日懇談会での回答) 駐車場以前の地歴は追って確認します。土壌汚染調査については、土壌汚染対策法に準じて実施します。 (9月15日懇談会後の追加回答) 駐車場以前の土地の用途は以下のとおりです。 1962年 三井造船 千葉工場 創業 (空き地、サッカーグラウンドとして利用) 2008年 駐車場 整備
12	5-102	調査・予測・評価	温室効果ガス等	(9月15日懇談会での質疑・意見) 予測項目に一酸化二窒素とメタンが挙げられているが、予測の対象にするほどの量が排出されるのか。	(9月15日懇談会での回答) 主となる温室効果ガスは二酸化炭素ですが、温暖化係数の高い物質を予測項目に取り上げています。なお、一酸化二窒素及びメタンの発生源や発生量等については、準備書で明らかにしていきます。 (9月15日懇談会後の追加回答) 一酸化二窒素は、廃棄物の焼却、自動車の走行により排出されるため、予測の対象としています。

別紙

硫酸化物の総量規制基準（赤字修正）

$$\text{廃棄物の処理量 [t/日} \cdot \text{2 炉合計]} = 330$$

$$[\text{t/h} \cdot \text{2 炉合計}] = 13.75$$

$$\text{廃棄物中の S 含有率 [湿基準\%]} = 0.34$$

$$\text{重油 S 含有率 [\%]} = 0.35$$

$$\text{重油比重} = 0.9$$

$$\begin{aligned} \text{重油換算値} \quad [\text{l/kg}] &= \text{廃棄物中の S 含有率} \div (\text{重油 S 含有率} \times \text{重油比重}) \\ &= 1.08 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{重油換算量 } W_i \quad [\text{kl/h}] &= 1.08 \times 13.75 \\ &= 14.84 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{許容硫酸化物量 (2 炉合計) } Q \quad [\text{Nm}^3/\text{h}] &= 3.3W^{0.88} + 0.5 \times 3.3\{ (W + W_i)^{0.88} - W^{0.88} \} \\ &= 3.3 \times 0^{0.88} + 0.5 \times 3.3\{ (0 + 14.84)^{0.88} - 0^{0.88} \} \\ &= \underline{17.72} \end{aligned}$$